

**Frameworkx**

 Daiwa House Group®

共催

一般財団法人運輸総合研究所  
日本貨物鉄道株式会社

貨物鉄道輸送**150年**記念セミナー

**2050年**の日本を支える貨物鉄道の挑戦  
～もっと、地球と地域のために～

荷主企業が考えている  
貨物鉄道への**期待**と**課題**

2023年12月20日  
秋葉淳一

Frameworkx

## 秋葉 淳一

ロジスティクス経営士 (JILS10001)

junichi.akiba@frame-wx.com



### 著書

物流改革の教科書

IoT時代のロジスティクス戦略

ミライへつなぐロジスティクス

株式会社フレームワークス 会長  
モノプラス株式会社 会長

顧問 (アドバイザー)  
9社

金沢工業大学虎ノ門大学院 イノベーションマネジメント研究 (MBA) 客員教授  
流通経済大学 流通情報学部 客員講師

RRI (ロボット革命・産業IoT イニシアティブ協議会) 物流倉庫テクニカルコミッティ長

ロジスティクスソリューションフェア2024 副委員長  
国際物流総合展2024 実行委員

日本ロジスティクスシステム協会  
能力開発委員  
ロジスティクス経営士専門委員  
物流技術管理士専門委員

新卒で大手鉄鋼メーカー系のゼネコンに入社、制御用コンピューター開発と生産管理システムの構築に従事。その後、多くの企業のSCM システムの構築とそれに伴うビジネスプロセス・リエンジニアリング (BPR) のコンサルティングを担当。

現在は、複数企業で活動する傍ら、金沢工業大学虎ノ門大学院、流通経済大学で教鞭をとる。また、日本ロジスティクスシステム協会の講師、各種専門委員として、ロジスティクス人材の育成にも力を注ぐ。「ロジスティクスのイノベーションが持続可能な社会を創る」を信念に、企業や業界の枠組みを越え、標準化やSDGs に繋がる「共創」の取り組みを発展させるべく、日々奔走中。

1. 荷主が考えている貨物鉄道への期待と課題を知る
2. 解決案
3. Appendix（現実を知る）
  - ① 2024年問題を知る

荷主企業が考えている  
貨物鉄道への期待と課題

# 「秋葉」の感覚

日本ロジスティクスシステム協会（JILS）の専門委員として、資格認定のために年間で70～80本の論文を読みます。「JR貨物」という単語が記述されることが明らかに増えています。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）より**荷主企業（物流子会社を含む）459社**に対して、鉄道輸送の利用における課題に関するアンケートを7/18～28に実施し、**80社**より回答を受領した。（依頼元は国土交通省（鉄道局）、事務局はJR貨物）

鉄道コンテナ輸送の現在のご利用状況 ※母数 **80件**

● 利用していない	20
● 利用している	54
● 過去に利用していた	4
● 今後、利用したい	2



今後の見通し ※母数 **63件**

● 変わらない	25
● 増やしたい	37
● 減らしたい	1



- ・ 2024年に4億トン、2030年に9.4億トン、不足する輸送量を補う**重要な物流インフラ**として利用をすすめたい
- ・ **CO2排出量削減**に寄与する輸送モードであり積極的に活用したい
- ・ 鉄道輸送を利用するにあたって、**基礎的なセミナー**（手続き、コスト、使用に適した距離、量）を開催して頂きたい
- ・ 着荷主の納品制約が緩和されれば**積極的に活用**したい

## 鉄道コンテナ輸送において課題と感ずる点（複数回答可）

②③	5tコンテナ（12ft）が自社の輸送ロットに合致しない	22
	大型コンテナ（31ft）で輸送したいが、コンテナが手配できない	15
	低温品の輸送したいが、コンテナが手配できない	7
	集荷・配達的能力が不足していて数が増やせない	8
②	貨物列車の輸送枠が不足している	16
①③	発着地となる物流センター側の設備がコンテナ使用に適さない	12
	自社だけではコンテナ分の荷量が確保できない	8
	貨物の位置情報などが分からない	12

①②③	災害・事故等による遅れ	56
	輸送品質が悪い（荷崩れ・擦れ）	17
①②③	貨物駅が最寄りでない	15
	ダイヤが合わない	15
①	コストが高い	24
	輸送依頼の手続きが複雑	2
	相談先（窓口）がわからず、始め方がわからない	3
	利用や検討したことがないため不明	10

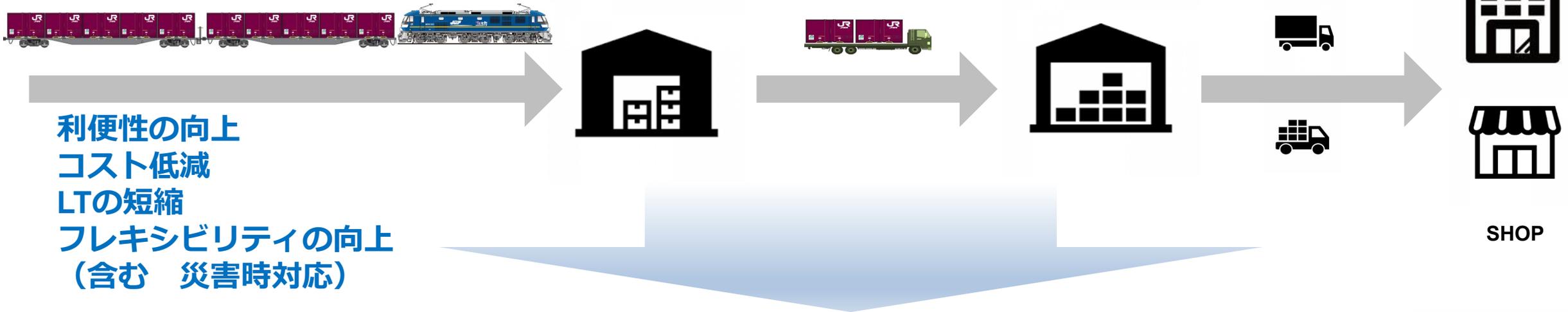
JR貨物だけでは解決できない課題も多くある。

規制の緩和や見直し、荷主の協力、通運会社の協力、6つの旅客会社の協力など、10年後に輸送量**倍増**を実現するためには、**共に考え、共に実行**することが不可欠です。

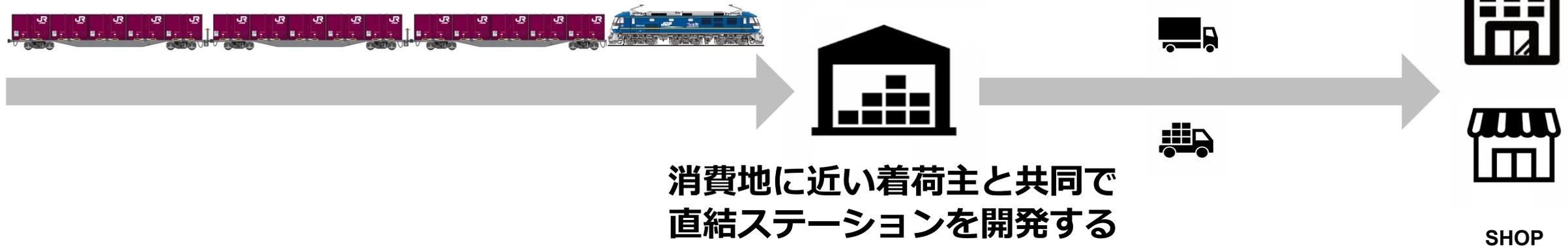
具体的な議論はパネルディスカッションの中で。

# 解決案 (例)

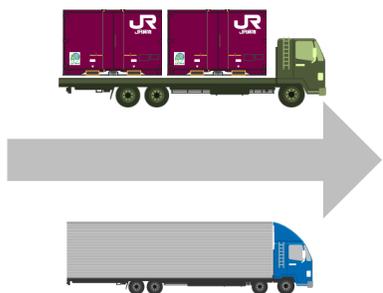
現在



近未来



近未来



荷役直結ステーション



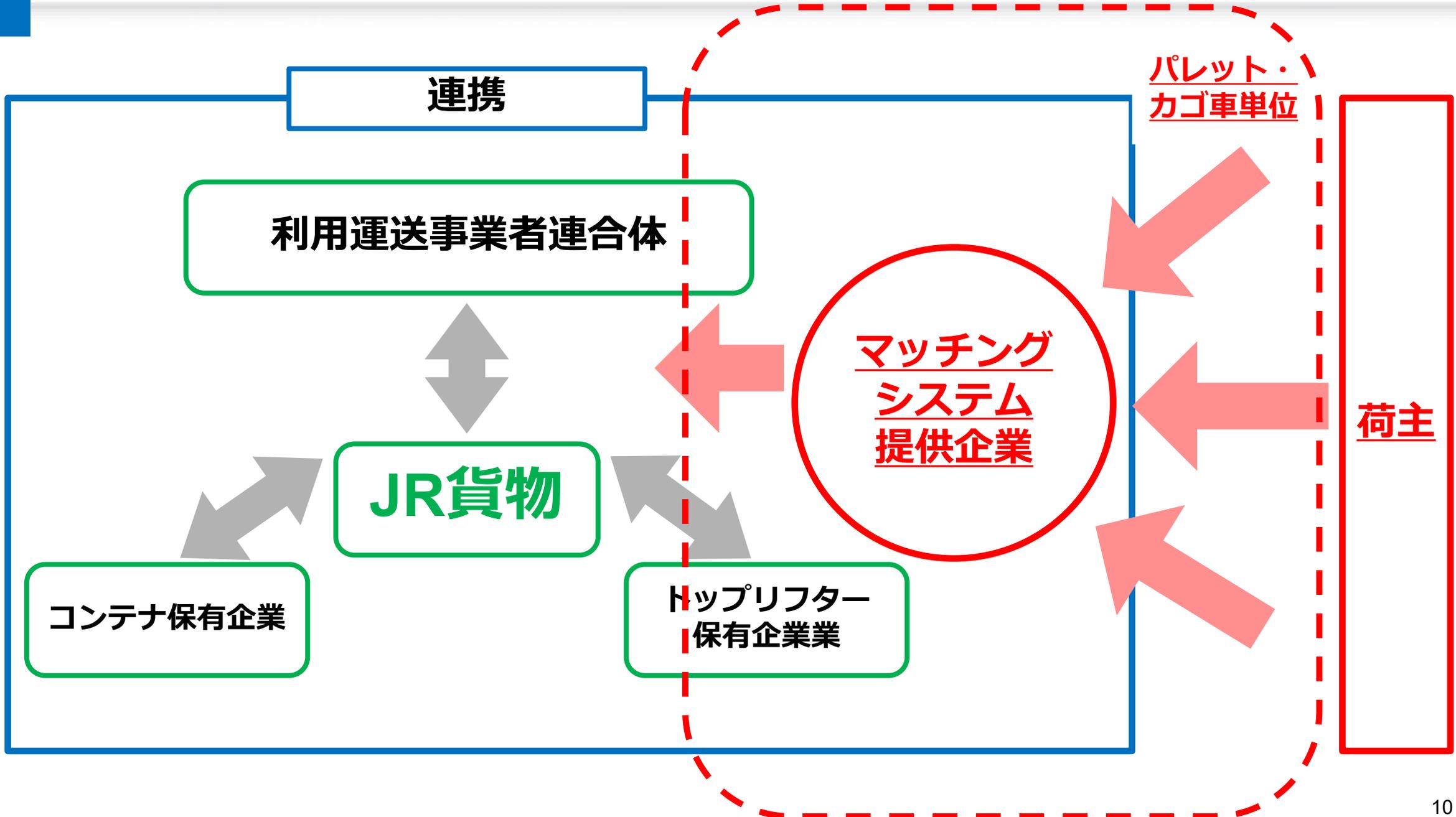
荷役直結ステーション



コンテナ単位からパレット・カゴ車単位で管理、  
取扱可能にする

利便性の向上  
フレキシビリティの向上  
(含む 災害時対応)

31ftコンテナの活用しやすさ



# Appendix (現実を知る)

# 2024年問題を知る

## 物量（実は）

航空貨物を除いたトラック輸送による宅配便の重量比は最大でも**3.8%**  
（宅配便個数：約50億個/年（令和3年度）、隠れ宅配も同レベルと言われている）

宅配便内シェアは3社（ヤマト運輸、日本郵便、佐川急便）で**94.8%**

残り**6万社以上**の運送会社における事業活動への対策、取組みが重要  
（トラック運送事業者数：約63,000社（令和3年3月末））

**宅配便への対策（話題）だけでは、「着荷主」の意識は変わらない。。。。**

EC拡大による**宅配便**の増加

多品種・小ロット輸送によるトラックの**積載効率**の低下

トラック**積載効率**は**1993**年に**55%**近くあった**2018**年には**40%**を下回っている  
(経済産業省)

この状況に加えて2024年問題（労働時間制限）

トラックドライバ不足

（ドライバの労働環境、**少子高齢化（構造的）**）

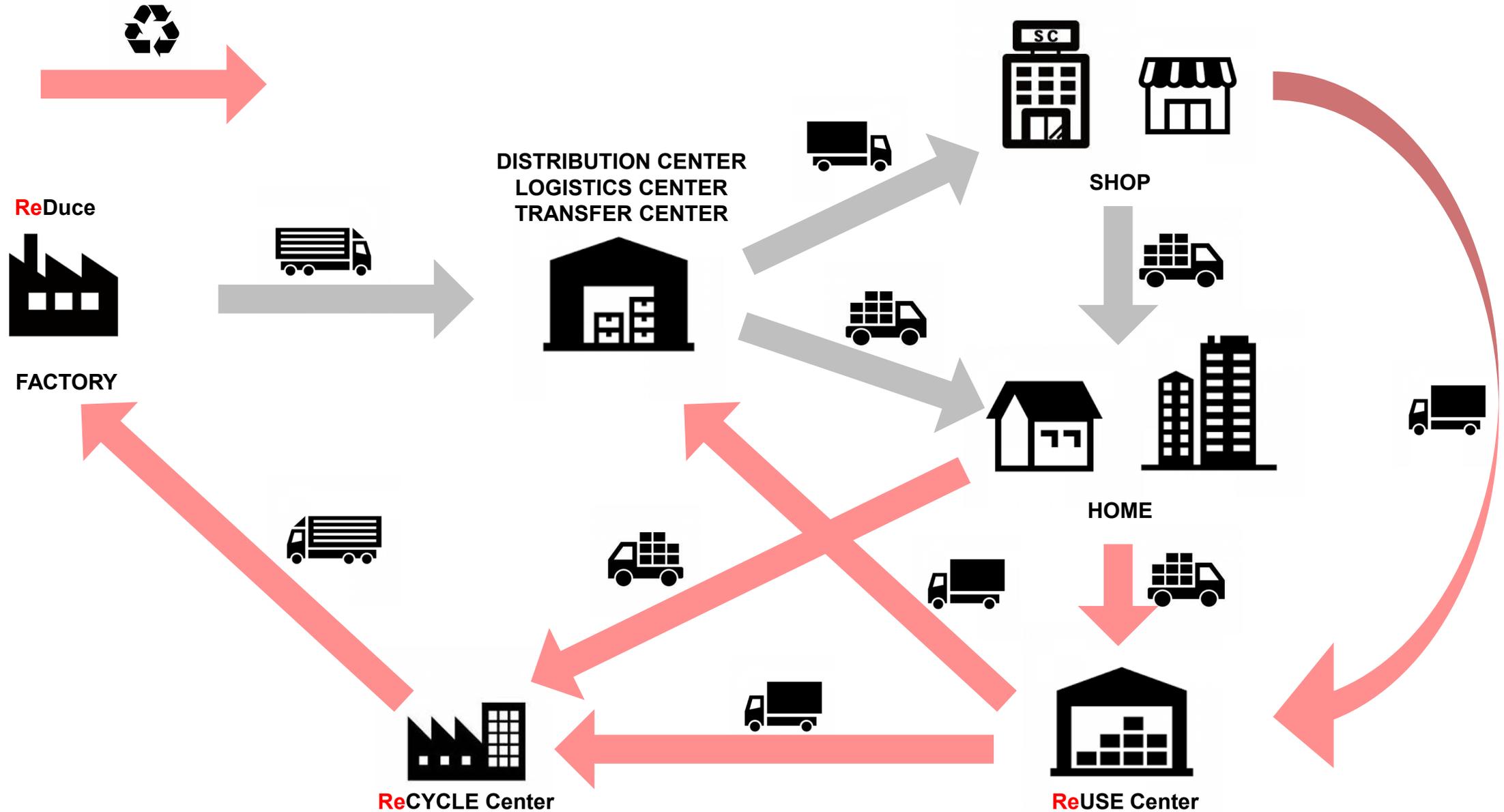
2019年と比較して2024年で不足する輸送能力は、**14.2%、4億トン**

2019年と比較して2030年で不足する輸送能力は、**34.1%、9.4億トン**

**輸送効率**を高める対策が必須

- ・ 荷役時間や待機時間を短縮して、「無駄」時間を極小化
- ・ 積載効率を高めるための標準化、共同化、共通化

# 「持続可能な社会のために」実行可能か？



# a Bridge to the **Future** ご清聴ありがとうございました！



## ミライへつなぐ ロジスティクス

ミナミと学ぶ持続可能な世界

秋葉淳一 藁科譲 水野博之 村松靖  
株式会社フレームワークス



主人公ミナミのストーリー+解説で分かりやすく解き明かす  
物流の危機から、**ロジスティクス“超”入門**  
ロジスティクスというチャンスへ  
来たるべき“共創”社会のカギ！

